銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—(6)—

東京支店　営業第一課　神　原　　勇

アユ科アユ

学名　*Plecoglossus altivelis*

英名　ayu

アユは一科一属一種の日本特有の淡水魚で，分布は本州・四国・九州全域に及び，北海道では日本海側の天塩川で採捕の記録があるも，太平洋岸では噴火湾の内部に注ぐ河川に限られていることから判る様に暖流系の魚類である。

日本以外では朝鮮半島・中国各地・台湾北部に分布するも，瀬や石礫の殆どない滔滔たる大陸の河川では，石礫に附着する藻類をはむアユの生息条件に適さず，山が海に迫り瀬や渕が数多くある日本の地形が絶好の生息地で，分布の中心であり，日本固有の特産物たる所似である。

アユは淡水魚の中では大きい方ではなく，そのまま料理皿にのる適宜の大きさ（シュンの頃の魚体長は7月7寸・8月8寸と表現される）と美しい姿態をもち，〝若アユのように〟とたとえられているように，ピチピチとした動作は躍動のシンボルともなっている。又〝水清ければ魚棲まず〟といわれるが，俗世界を逃避するように水のきれいな，流れの速い渓流を生息地としているので，清楚さ及気品さを強く印象づけさせる。

万葉集

- 松浦川　川の瀬ひかり　アユ釣ると
  立たせる妹が　裳の裾濡れぬ
- 春されば　吾が家の里の　川門には
  アユこさばしる　君待ちがてに

と歌われているように古来より吾々祖先の人々に親しまれてきている。

1940年発行（紀元2600年記念）の十銭切手のデザインは，天皇の即位儀礼のとき，きざはし(階)の左右に立てられる七種の旗の内の一つで，赤地錦の上方には五尾のアユと一ケの厳瓮（いつべ）その下方に金字で萬歳（ばんせい）の二字がぬいとりされていて，萬歳旗（ばんせいばた）と呼ばれるもので，次のようが故事にもとづく。

神武天皇御東征のみぎり紀伊から大和に入られ高倉山より遙か下方をながめられると土族の防備がきびしく攻めあぐねておられたとき，或る夜夢枕に〝天香山の土で平瓮（平たい土器）と厳瓮(かめ)を作り天地の神々を祀れ〟との御告げをうけたので早速これを作り，丹生川の上流にて「今此の厳瓮を沈めるのでこの国を治める事が出来るのであれば，この川の魚はすべてマキの葉の流れる様に酔うて浮かばしめよ」と祈りそのかめを沈めたところ，魚が浮んできたのでこの吉兆を喜ばれ，軍を進めヤソタケルらを平定して大和の橿原宮で即位された。このときの魚は旧暦九月の事であるのでアユと考えられる。又即位儀礼のときの机代物として乾しアユが用いられている。

鵜飼は藩主や将軍家の庇護のもとに古い歴史をもち，現在岐阜には宮内庁式部職の鵜匠がいるし又漁具一式重要文化財となっている。鵜匠のあやつる鵜は茨城県産の海鵜が用いられ，檜の木質部で作られた縄で舟の上より操作するが，風折烏帽子に腰裳をつけた格調の高い漁法で，満腹した鵜は舟に上げて食道にたまった魚をはかせるが，首にしめてある首結の加減で小さな魚は飲み込めるようにしてあり，あまり締め過ぎても緩めても鵜は働かなくなる。長良川では鵜の嘴のあとのついたアユは珍重される。

ニシン目 アユ科 アユ

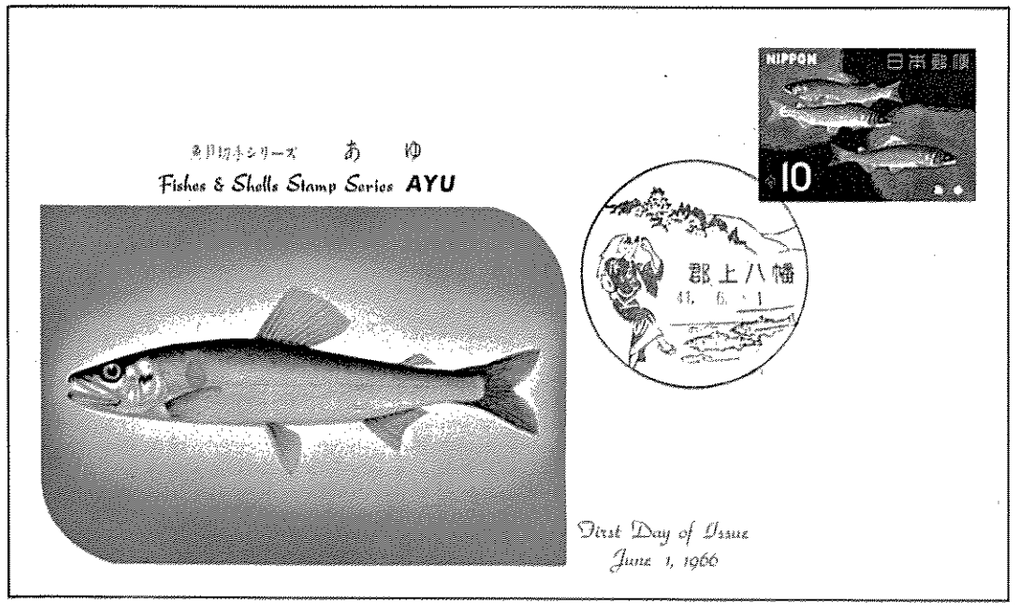
学名：Plecoglossus altivelis

英名：Ayu

和名：細鱗魚、銀口魚、年魚、香魚、

アユハ古来ヨリ日本人ニ親シマレテキタ川魚ノ王デ、河川ノ上、中流域ノ礫石、岩石、岩盤等ノ瀬ヤ渕ニ棲ミ、附着藻類（硅藻、藍藻等）ヲ特有ノ櫛歯ノ両唇デハギトッテ食ベル。縄張リ意識ヲモチ友釣リノ対象トナル。産卵期ハ9～12月デ降雨ヤ洪水ニ乗ッテ仔魚ハ海ニ降リ越冬スル。翌春3～5月ニ遡河ヲ開始スル。シュンハ初夏デ美味ノ形状、香リ、味覚、構造、環境等、總ベテノ点ニオイテ日本ノ代表的ナ名魚デアル。淡水魚類ノ中デ"世界ノ川魚ノ王"ト呼称シテモ過言デハナイ。

1940・2・11

1966・6・1

1953・9・15